

## 地震の防災等について住民主体で学習会を開催

全国山村振興連盟事務局長 實重重実

ご記憶の方も多いと思いますが、本年は新年早々の1月6日に、島根県東部・鳥取県西部で震度5強の地震が連続して3回発生しました。震源地が私の出身である島根県安来市の山村地域・布部地区にある断層だったとのことであり、後日談を聞いているので紹介させていただきます。

この地域は、長く地震が発生しなかった地域でしたが、平成12年に鳥取県西部を中心に震度6強の地震があり、かなりの被害を生じました。地質学の専門家によると、安来市布部地区の地下には、これまで十分調査されてこなかった「隠れ活断層」があり、今後マグニチュード6～7程度の地震がいつ生じてもおかしくないとされています。

こうした中で、布部地区の住民たちで結成している「布部の未来を考える会」が中心となって、地震防災に関する学習会が開催されました。2月21日（土）に地質学の専門家である島根大学の向吉秀樹准教授を招き、断層の特徴や地震との関係について講演をしてもらったとのことでした。「正しく知って、正しく恐れ、しっかり備える」ことを目的としていました。80人程度の住民や関係者が集まって、活発な質疑応答がなされたと聞いています。

私がここで触れたいのは、この「布部の未来を考える会」のことです。「笑顔で過ごせる安心な郷部会」（万場朋広部長）が中心となって、この地震防災学習会を開催したとのことでした。この人は、企業を退職した後、地域の耕作されていない農地を受託して、いわゆる「受託経営」の形で農業を営まれています。

この部会では、昨年秋に北日本を中心に頻発したクマの人身被害に関して、住民の不安が高まったことから、11月1日にクマ被害防止に関する学習会を開催しました。これがきっかけとなって、活発に活動をされるようになったのでした。安来市の行政もこの会を後援しているのですが、あくまで住民主体の会であって、市から補助金が出ているといったようなものではないそうです。

しかし市や行政にとっては、こうした住民自治が盛り上がっていくことは大変ありがたいことではないでしょうか。農水省・国土交通省・総務省といった行政においても、地域運営組織（RMO）を支援し、その活動を促進しようとしています。しかしそのためには、この布部地区に見られるように、中心となって地域発展のために、いわば「損得抜き」というほどの思いを持って活動していただける中核的なリーダーが必要なことでしょう。

そして、市町村内で、こうした地区が1つでも出てくれば、それが刺激となって他の地区にも波及することでしょう。他の地区でも活動の中心となるリーダーが輩出していくといった、良い波及効果が生じることが期待されます。

国・都道府県・市町村の行政も、こうした住民自治による組織の活動を大いに助長して、山村の悩みごとの解決、不安への対処、そして地域の活性化につなげて行っていただければありがたいと思います。